

THE ROTARY CLUB OF CHOSHI

銚子ロータリークラブ会報

国際ロータリー第2790地区

創立 昭和32年3月23日

RI承認 昭和32年4月15日

会長 大里 忠 弘

副会長 宮内 榮

幹事 金島 弘

会計 金子 芳 則

2012～2013年度 RIテーマ

奉仕を通じて平和を

Peace Through Service

2012～2013 RI会長 田 中 作 次



例会日時 毎週水曜 12:30～

例会場 銚子商工会館5F大会議室

事務所 銚子市三軒町19-4

銚子商工会館内

電話 0479-25-3111(会館)

0479-23-0750(専用)

ファクス 0479-25-8789

e-mail rotary@choshinet.or.jp

URL <http://www.tcs-net.ne.jp/~crc>

第2736号 (2012年11月21日発行)

今週のプログラム

『(財)日本ウエザリングテストセンター
と耐候性試験について』

(財)日本ウエザリングテストセンター
銚子暴露試験場長 高根由充様

前回の例会報告 (11月14日)

点鐘： 大里 忠 弘 会長

ロータリーソング：我等の生業

会長挨拶

11日曜日、地区の第2回ローターアクト合同会議が千葉で開催され内田ローターアクト委員長が参加されています。お疲れさまでした。また11日には金島会員が会長を勤められています、金島建設創業30周年の式典が会員の皆さんも多数出席されるなか行われたということでたいへんおめでとうございます。私は当日出席できず申し訳ありませんでした。

さて、毎年この頃になると必ずと言って良いほど話にできます「ボジョレーヌーボー」今年の解禁日は11月第2週の木曜日と言うことなので明日になりますが、早速今年は不作だなんて話題にされています。バブルの頃からか日本では騒がれるようになり、そのお祭り騒ぎの様子はテレビ

でもずいぶん放映されていました。そのころは世界で1番のお客でありましたが、もちろん今では中国にその場を奪われています。中国では今までワインをまったく飲まなかったような人たちが飲むようになり、通常ワインの消費も爆発的に増え、世界中の生産地にとって不況の欧米や日本より最も魅力的な市場になっています。まさにバブルの頃の日本と一緒です。違うのは、中国人は出荷されたワインは無論のこと、世界中のワインで有名な産地のブドウ畑を投資の対象として買ってしまい、やはり当地では文化が買われるとたいへん物議を醸しているようです。

これに対しイタリアでもワインの新種のことを「ヴィーノノヴェッロ」といってこの時期に出荷が解禁されます。イタリア語で生まれたばかりの、とか出来立てのとか言う意味です。今年の解禁日は10月30日でした。今年から法律が変わり今までより解禁が1週間早まりました。ノヴェッロは主に北イタリア中部イタリアで造られます。イタリアはフランスより南に位置しているので若干収穫も早く新種ワインをフランスよりも早



第2790地区

ガバナー 得 居 仁 (松戸東RC)

会報委員

大岩將道、坂本尚史、越川信一

く出荷できるわけですが、生産量がまだまだ少なく輸出にはそれほどまわらないのが現状のようです。味はもちろん産地やブドウの品種がさまざまに違いますから比較できませんが、全体的にボジョレーヌーボーよりアルコール度が低くマイルドです。

ヌーボーはいまや世界的に有名ですが、ノヴェッコはまだ知名度がありません。フランスでは1970年代からヌーボーを世界に宣伝していましたが、イタリアはようやく最近になって戦略的に解禁日を早くしたり、宣伝にも力を入れ輸出を増やそうとしているそうです。でもまだあまり聞きませんよね。どこかと一緒に発信力が弱いのか。是非今年はいつものヌーボーではなくノヴェッコと洒落てみては如何でしょうか。

会員の記念日



◇ 誕生日おめでとうございます。

松本 恭一 会員
(11月9日)

◇ 結婚記念日おめでとうございます。

織田 吉郎 会員 (11月9日)
伊東 功 会員 (11月11日)

◇ 入会記念日おめでとうございます。

加瀬 貞治 会員 (11月13日)

◇ 創業記念日おめでとうございます。

高木 浩一 会員 (11月12日)

幹事報告

1. 週報拝受 ……館山RC、八日市場RC、成田空港南RC
2. 「2013年ロータリー世界平和フォーラム広島」の登録取り纏めの件……ガバナー事務所
3. 会報送付の御礼 ……ガバナー事務所
4. 奉仕室臨時ニュースレター第三回「クラブデータ更新」について
……国際ロータリー日本事務所
5. ハイライトよねやま152号
……ロータリー米山記念奨学会
6. 青澄祭のご案内 ……千葉科学大学RAC

会員スピーチ



◇ 小田島 国博 会員

税理士業 44年とロータリー歴 33年7ヶ月の経験を生かして、これからの人生を本気で活動していきたいと思えます。

委員会報告

◇ 親睦活動委員会 (石毛 充委員長)

12月19日クリスマス家族会(太陽の里)にご参加下さい。

ニコニコ

◇ 金島 弘 会員

先週11月11日、会社創立30周年記念式典及び祝賀会に大勢の会員の皆様にご出席をいただき、大変うれしく心より御礼を申し上げます。

◇ 阿天坊 俊明 会員

銚子うめえもん会は第3回銚子極上さば料理祭を11月17日(土)～来年1月20日(日)まで開催するにあたり記者会見を行い、我が社のさばの開きが取り上げられNHKニュースと今日読売・毎日新聞の千葉版に載りました。開催期間中どうか食べ歩きをして下さい。

◇ 石毛 充 会員

私の長男が11月11日(日)匝瑳市アリーナで全日本武道空手道交流大会にて一般重量級組手で優勝することができまして、昨年に続き2連覇です。

<卓話>

《R財団「未来の夢計画」について》

青野 秀樹 国際奉仕委員長

今月11月はロータリー財団月間です。国際奉仕委員会はロータリー財団と米山奨学生の二つの委員会で構成されていますので、2つの委員会についてのおさらいから話そうと思えます。



米山記念奨学会は 1952 年昭和 27 年に東京ロータリークラブが戦後のアジア諸民族の融和に役立てる目的で、主として東南アジア諸国からの留学生に奨学金を支給するための基金を設定し、これを東京ロータリークラブ創立者米山梅吉翁

の功績を記念する意味で、米山基金と名付けたことから始まりました。今年が 60 周年になります。今ではアフリカ・中近東・オセアニア・北中南米・ヨーロッパ諸国からの留学生も含んでおり、毎年 800 人（来年から 700 人）これまでに 121 の国と地域から 17,000 人の留学生を支援する国内最大の奨学生支援事業に育ちました。この事業の特徴は、奨学生一人ひとりに世話クラブおよびカウンセラーを定め、異国で暮らす留学生を物心両面から支えるという特徴があります。

次にロータリー財団ですが、1917 年アメリカアトランタで開催された国際大会において 6 人目の R I 会長アーチ・クランフが「全世界的な規模で慈善・教育・その他社会奉仕の分野でよりよきことをするために基金をつくらう」と提案をしたことに始まり、1928 年に国際大会でロータリー財団と名付けられました。そして 19 年後に転機が訪れます。

1947 年 1 月 27 日にポール・ハリスが亡くなると、寄付が国際ロータリーに寄せられるようになりました。そこで財団はポール・ハリス記念基金を設け、財団寄付をお願いしたところ翌年 7 月までに 130 万ドル以上が寄付されました、その後、1957 年に財団の活動に寄付した人々への会社を表す手段として、ポール・ハリス・フェローの認証を開始したのです。ロータリー財団を構成する法人会員は R I のみであり、正式名称は「国際ロータリーのロータリー財団」であります。財団の使命は、地域レベル、全国レベル、国際レベルの人道的、教育的、文化交流プログラムを通じて、ロータリーの綱領とロータリーの使命を遂行し、かつ世界理解と平和を達成しようとする R I の努力を支援することにあります。

そして、これまで財団は人道的プログラム 教育プログラム ポリオ・プラスの 3 つの活動をしてきました。

1. 人道的プログラムは、人道的な事業についての補助金を支給します。
2. 教育プログラムには国際親善奨学会（多くの国の有望な学生を他国に派遣し、国際親善と理解を育成し、奨学生に勉学の機会を提供し、相異なる国民間の理解と友好関係の増進に寄与することを目的とします）
3. ポリオ・プラス（ポリオ+はしか+ジフテ

リア+結核+百日咳+破傷風）

1985 年のポリオ・プラス・プログラムの発即以来、ワクチンを摂取した子供の数は 20 億人を上回ります。WHO の発表によれば、1988 年には 125 カ国にポリオが発生していましたが、今ではナイジェリア、パキスタン、アフガニスタン 3 カ国にまで減少し、ポリオを無くす最終段階と呼ばれる状態になっています。また、ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団から授与された 3 億 5,500 万ドルの補助金にこたえる為に始められたポリオ 2 億ドルチャレンジへの寄付金は 2012 年 3 月 30 日に達成されました。

さてここでクイズです。世界ポリオデーはいつでしょう。10 月 24 日です。これはポリオワクチンを発明したジョナス・ソーク博士の誕生日にちなんだ記念日です。

では本題の「未来の夢計画」についてお話しします。これまでの財団制度は、3 年前の年次寄付+恒久基金の収益の半分が、国際財団活動資金 (WF)、もう半分が地区財団活動資金 (DDF) でありました。しかし新しい制度では、小規模マッチング・グラントと国際親善奨学生プログラムを地区補助金の半分以下にし、残りを 6 つの人道分野に使用制限をかけグローバル補助金の負担金としてロータリー財団の管理下に置かれることになったのです。つまり、地区独自の判断ではこれまでの地区補助金の半分しか使うことが出来なくなりました。

新地区補助金では、クラブが主体となって事業計画を立案、3 月から 4 月ごろ地区に申請、地区が財団へ一括申請（6 月初旬ころ、年度 1 回限り）、つまり今年度は計画年度となり、次年度に補助金を受け取って実施することになりました。つまり、2 年度にわたるのです。プロジェクト期間は短期、長くても補助金を受け取ってから 24 カ月以内に完了しなくてはなりません。

グローバル補助金では提案書及び申請書は随時にクラブから財団に直接提出し、申請書が承認されれば翌年度に支給されることとなります。このプロジェクト期間は長期にわたります。また事業予算は最低 15,000 ドル、上限 20 万ドルと高額になります。

さて、11 月号ロータリーの友に川口東 RC の記事がありました。

「グローバル補助金活用のポイント」の題です。2010-11 年度において、フィリピン・マニラメトロ RC との間で、グローバル補助金を使って 2 つの高校に、水浄化装置とトイレを寄贈した活動で事業規模は総額 3 万 1,300 ドルです。そしてグローバル補助金申請と活用のポイントを 3 つあげていました。

1. 提案書の作製と提出が最重要ポイント 提案書は可能な限りホストスポンサークラブ（事業

実施国のクラブ) で作製するようにする。

2. ホストスポンサークラブ選びは重要 可能な限り先方のクラブに複数の友人・知人がいるクラブを選択する。 川口東ロータリークラブとマニラメトロRCとは4年以上 WCS を共同実施している。

3. 持続可能性のあるプロジェクトに仕立てることがポイント 今回は水浄化装置でペットボトル入りの飲料水を高校の保護者が組織する団体が主体となって製造し、そのきれいな水を地域住民に安価で提供することにより、住民の衛生や健康維持に貢献し、収益金を浄化装置の維持メンテナンスに使い、継続的かつ持続可能な事業としました。

最後に、現在 2790 地区財団委員会が木更津東 RC と一緒に提案書作成をしている山羊銀行についてお話しします。この事業は木更津東ロータリークラブが、2007 年よりネパール・ダンプス村で始めた教育支援が始まりです。ダンプス村はネパールの主要な観光地のひとつであるポカラから 15 km にあるフェデイ (バスで約 1 時間) に至り、ここより徒歩で 2、3 時間急坂を登りきった標高 1800m の高地にある農業主体の小さな村ですが、ヒマラヤ展望の出来る観光地として知られ、観光客向けのロッジ、ホテル等が点在しています。1991 年のネパール国勢調査では 547 世帯、2753 人の人口でありました。2009 年に、この教育支援を一步進めて、持続可能であること、自助努力を求めることの 2 条件を前提に、新たに山羊基金事業を始めました。この事業は、学校に行きたくても行くことのできない児童を抱えた貧困家庭に山羊を贈り、自らの努力で育て、繁殖させることにより生活の向上を計り、子供たちに就学の機会を与えることです。ネパールでは 10 頭の山羊がいれば最低限の生活が成り立つそうです。そして、山羊は繁殖力が旺盛で 1 回に 2 から 3 頭の子山羊を出産し、うまくいくと年 2 回繁殖が行われます。これまでに 2010 年 1 月に 8 頭の山羊を 4 家族に、そして今年新潟市の万代 (バンダイ) RC の協賛を得て 8 月に 9 家族に 18 頭の山羊を送りましたが、その後繁殖も順調に進んだそうです。これらの経緯を踏まえて、更に一步進めて、より持続可能でありより広範囲に支援することが出来る事業として、山羊銀行プロジェクトが企画されました。内容は現地ダンプス村に山羊の飼育・繁殖をする牧場をつくり、そこで育てた山羊を地域の修学児童を抱えた貧困家庭に貸し与え、その山羊を飼育・繁殖させることで、生活の向上と児童に就学の機会を与える。そして、生活が安定した段階で山羊あるいは現金等で若干の利息をつけて返済をしてもらうというものです。このようにすれば事業の持続性が計れます。また、牧場で働く人々を雇うことで地域の雇用機会が増え、更

に牧場で飼育する山羊の乳からチーズ等の乳製品を製造・販売することにより牧場に維持経費の一助とすると十分にグローバル補助金に当てはまる企画です。この申請がうまくいくことを念じています。

さて、銚子クラブは今後国際奉仕に対しどのように活動していくのが良いでしょうか。クラブの活動活性化を考えればグローバル補助金を使うプロジェクトを初めから排除するわけにはいきません。そこで、まず新地区補助金をグローバル補助金と同様人道的プロジェクトに当てはめて、企画実行し、必要なノウハウ、人脈、住民の要望などの情報を集めるところから始めるべきだと思います。

そしてこれが一番大切だと思いますが単年度では財団の補助金を使用出来ないわけですので、クラブ内でのコンセンサスを十分行うことです。銚子クラブの未来の為に皆で考えていこうではありませんか。

最後になりますが、ロータリー財団も米山も皆さまの寄付で運営されています。どうか、本年度もロータリー財団、米山記念奨学会に変わりないご理解とご協力をよろしくお願いして卓話を終わります。

【出席報告】

会員総数 40 名 出席計算 38 名
出席 : 33 名 欠席 5 名 出席率 86.84%
欠席 : 石川君・坂本君・杉山君・田中君・内田君

【M U】

地区第 2 回 R A C 会議 (11/11)
内田君

【ニコニコ】

ニコニコ BOX	¥ 23,000	計	¥ 220,000
スモールコイン	¥ 3,104	計	¥ 31,699
米山 BOX	¥ -	計	¥ 24,249

次週のプログラム (11月28日)

『ひびき連合会韓国公演』

金島 弘 会員

お弁当 : あぐり (幕の内)